

～前号より～

インドネシアの文化と日本

No.3

クレアでは自治体の海外経済活動に対して、より効果的な支援を行うため、経済交流課に経済アドバイザー（商社 OB）を配置しています。海外経済活動に必要な基本情報から、輸出入業務や海外でのイベント展開、商談を行う際の注意点などの個別具体的なアドバイスまで、専門的見地からの助言を行っています。どうぞご活用ください。



3. インドネシアの人々の生活哲学

ジャワの人々の生活で守らなければならない言い伝えは下記の3つの言葉で表現される。

- (1) ナリモ (NARIMO)
- (2) サバル (SABAR)
- (3) エリン(ELING)

(1)ナリモ

インドネシア人の心根は大変優しい。しかし非常に情熱的などころもあるが、南方的にかなり楽天的と言ったほうが適切かもしれない。ナリモはどんなに不愉快であっても運命を受け入れるという意味である。生活が苦しくともそれを我慢する。自分よりももっと苦しい人々もたくさんいる、神から与えられている自分の今の境遇は、他の人々と比べ、まだまだ我慢が足りないという意味である。そのような考え方から、自分の失敗のために簡単に人を攻めたりはしない。非常に寛大な精神を持っている。

(2)サバル

どんな状況にあっても忍耐の態度を保持するという意味である。ジャワ人は過激な行動で猛進したり、要求を達成しようとはしない。時間は十分あるという考え方で適当な時期が来るのを待つ。インドネシア人の口癖”ティダアパアパ”心配ないという意味に近い。ただし、上下関係には厳しく、礼儀や敬語が存在し、ここでも日本人の礼儀作法に通じるものがある。

(3)エリン

ジャワ人は全てにおいて急がない。ジャワ人は感情におもむくまま、大笑いをしたり、なき叫んだり、怒ったりしない。例外はあるがどちらかというところと遠慮がちである。



西ジャワの民族舞踊 (<http://www.minpaku.ne.jp>)

エリンとはある事が起きる前に敏感に感知することである。一般的には注意深い、悪く言えばゆったりしている。小さい時からそうした環境で育ち、そうした訓練を受

けて育つ。ジャワ人の性格は従順で素直である。多少閉鎖的な性格もあるが、時にきわめて激しいところを出す時がある。すなわちエリンが効かなくなる時がある。

以上はジャワ人特有の性格と考え方を記載したが、インドネシアは一つの民族の国家ではない事は既に周知の事実だが、少なくとも民族だけでも、ジャワ人、スンダ人、バタック族、メダン人、アンボン人、メナド人、ブキス族等が上げられる。民族同士の言語と独特の生活哲学と文化を持っているのである。代表的にはスンダ人は性格的



バタック人の住居 (<http://ja.wikipedia.org>)

にははっきりとしており、外国人にはわかりやすい。また、スマトラに住む、バタック族やメダン人は性格が荒く、頭脳明晰と聞いている。メナド人は歴史的に日本との関係も深く、メナドは日本の”みなと(港)”から名付けられたと言う説がある。そのほか、アンボン人、南スラウエシ人やカリマンタンに住む民族もいる。それぞれ特徴もあり、多様性を秘めているが、ここでは、特に日本人の性格に近く、とりわけ上流社会の価値観や美意識が類似しているジャワ人を中心に特徴を記載した。

(4)ゴトン・ロヨン

ゴトン・ロヨンとは集団における助け合いの精神をいう。インドネシアには今なお伝統的なこの精神が残っている。湿気の多い日本と共通したところもある。インドネシアでは、田植え、稲刈り、家屋建築、死者の埋葬と言った日常行事の重要な行事を集団で行う。農村社会だけでなく、都市社会でも、家族、親族、同郷者、出身学校同窓会、職場内での助け合いの精神である。安定した職についている人は、貧しい縁者を助ける義務を負っている。社会保障が充実していなくとも何とかやっつけいける仕組みを伝統的なネットワークとして構築している。ここでも、昔の日本の農村ではどこにでも見られる文化と酷似している。

～次号へ続く～